

平成 29 年度「女子中高生夏の学校 2017～科学・技術・人との出会い～」参加報告
出世ゆかり（防災科研）、小田真祐子(気象研究所)、清野直子（気象研究所）

女子中高生が「科学技術にふれ」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として、2017年8月5日～7日の日程で「女子中高生夏の学校」（以後「夏学」）が開催されました（https://www.nwec.jp/event/training/g_natsugaku2017.html）。「夏学」は独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）の主催で平成17年度より毎年開催されており、今年で13回目を迎えたそうです。全国から集まった約150名の女子中高生と、約50名の保護者・教員が、2泊3日の合宿研修を行い、女子中高生が科学研究者、技術者、大学生・大学院生等との交流を通じて、理系進路の魅力を知り、理系に進もうという意思を高めることを目指しています。地球科学分野では、これまでも日本地球惑星科学連合によるポスター出展（2013年から）などが行われてきました。

気象学会は、気象学に興味を持ってもらう機会の一つとして、教育と普及委員会が中心となり2日目に行われたポスター展示に今年はじめて出展しました。当日は人材育成・男女共同参画委員会も参加し、ポスターの説明やキャリア相談を行いました。このポスター展示は、「研究者・技術者と話そう」という企画の一環として行われているもので、女子高生がポスターや展示内容について積極的に質問をする練習の場としても設定されています。また今後の進路や学校での勉強について相談することも可能です。幸い気象学会のブースはポスター会場の入り口付近に設置されていたので、会場を訪れた参加者に「お天気は好きですか?」「気象に興味はありますか?」と声を掛けることができ、多くの方とお話することができました。ポスターでは「天気図の作り方」や「気象予報について」の説明を行いました。またもともと気象に興味を持っている参加者も多く、参加者自身が過去に経験した気象についての質問や、将来気象関係の仕事に就くためには今どのような勉強をしておけばよいのか、気象学はどの大学で学べるのか、等の相談を受けました。ブースを訪れた参加者の表情は皆生き生きとしており、それぞれの興味に基づいていくつもの質問を投げかけてきたことがとても印象に残りました。今回の「夏学」が、女子中高生にとって気象分野に魅力を感じるきっかけの一つになることを願うと同時に、将来の気象分野を担う人材が参加者の中にいるかもしれないと思えるほど、女子中高生のパワーを感じたひとときでした。

